

[ベノミル・TPN 水和剤]

# ダコレート水和剤

有効成分：ベノミル（化管法1種）…………… 20.0%  
 TPN（化管法1種）…………… 50.0%  
 その他成分：メチルベンゾイミダゾール-2-イルカルバマート（カルベンダジム）  
 （化管法1種）…………… 1.1%以下

性状：類白色水和性粉末 63 $\mu$ m以下  
 毒性：－  
 危険物：－  
 包装：100g×100袋  
 500g×20袋

ダコレート：登録商標第 944023 号

## 〔特長〕

- 稲の箱育苗の苗立枯病（リゾープス菌、トリコデルマ菌、フザリウム菌）、いもち病（苗いもち）に優れた防除効果を発揮する。
- 病原菌の胞子形成、発芽、菌糸生育を阻止することにより、優れた防除効果を示す。
- ももの重要病害に優れた効果を発揮する。TPN（ダコニール）の保護作用とベノミルの浸透性により、安定した効果を示す。

## 〔適用病害と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ベノミルを 含む農薬の 総使用回数	TPN を 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 (苗いもち)	400	育苗箱 (30× 60×3cm、使 用土壌約5ℓ)	は種時	1回	灌注	2回以内 (種子への処理： 1回以内、 床土への混和： 1回以内)	2回以内
	苗立枯病 (リゾープス菌 トリコデルマ菌 フザリウム菌)	400～ 600	1箱当り0.5ℓ	は種時から 緑化期 但し、 は種14日後 まで	2回以内			
		800～ 1200	育苗箱 (30× 60×3cm、使 用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ					
もも	灰星病 ホモプシス腐敗病 果実赤点病	1000～ 1500	200～ 700ℓ / 10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内	6回以内
	黒星病 枝折病 すすかび病	1000	100～ 500ℓ / 10a	収穫終了後	4回以内			
たまねぎ	灰色かび病	800	100～ 300ℓ / 10a	収穫7日前 まで	6回以内	散布	8回以内 (種子粉衣： 1回以内、 育苗培土混和、 灌注または 苗根部浸漬： 合計1回以内、 散布：6回以内)	6回以内

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ベノミルを 含む農薬の 総使用回数	T P N を 含む農薬の 総使用回数
レタス	べと病 灰色かび病 すそ枯病	1500		収穫14日前 まで	3回以内		5回以内 (種子粉衣： 1回以内、 は種後：4回以内)	5回以内 (土壌灌注： 2回以内、 散布及び 無人航空機散布： 合計3回以内)
キャベツ	根朽病 菌核病 べと病		100～ 300 ℓ / 10a	収穫14日前 まで		散布	7回以内 (種子粉衣： 1回以内、 は種後：6回以内)	3回以内 (は種又は定植 前の土壌混和： 1回以内、 散布、無人 航空機散布及び エアゾル剤の 噴射： 合計2回以内)
はくさい	黒斑病 べと病 菌核病	1000		収穫7日前 まで	2回以内		3回以内 (種子粉衣： 1回以内、 は種後：2回以内)	3回以内 (は種又は定植 前の土壌混和： 1回以内、 散布及び 無人航空機散布： 合計2回以内)
ブロッコリー	べと病 菌核病			出蕾前 但し、 収穫21日前 まで			4回以内 (種子粉衣： 1回以内、 は種後：3回以内)	3回以内 (土壌灌注： 1回以内、 散布及び 無人航空機散布： 合計2回以内)

## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤の所定量に少量の水を加えて糊状にねり、のち所要量の水を加え十分かきまぜて散布液を調製し、調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布する。
- ボルドー液や石灰硫黄合剤などのアルカリ性薬剤との混用はさける。
- 本剤を使用した場合には、チオファネートメチルを含む剤を使用しない。ただし、種子への処理、種籾への処理および塗布処理を除く。
- 稲に使用する場合、育苗箱から希釈液が漏出しないように注意する。
- 稲の緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意する。

## ⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。  
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 夏期高温時の使用をさける。



- 使用の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。作業時に着用していた衣服等は、他のものとは分けて洗濯する。



- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。



- 魚毒性…水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意する。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

[保管]：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

化管法に対応するその他の注意事項は別表の分類5に表示してある。

---

農薬登録（登録番号）：住友化学（21818）、エス・ディー・エス バイオテック（14492）、  
クミアイ化学工業（14493）

販売：クミアイ化学工業、住友化学